

太田さん 2年連続 1位



中学英語弁論府大会

2位金井さん 3位吉田さん

高田宮杯第68回全日本中学校英語弁論大会の府大会（読売新聞社、日本学生協会基金主催、日本コカ・コーラ特別協賛）が18日、読売京都ビル（中京区）で開かれ、洛南高校付属中2年太田みらのさん（13）＝写真
 中央Ⅱが2年連続で1位となった。2位はノートルダム学院中3年金井鈴佳さん（14）＝同左Ⅱ、3位は同志社中3年吉田麻里子さん（15）＝同右Ⅱ。3人は11月23～25日、東京で行われる中央大会に出場する。

11月、中央大会

12人が参加し、一人5分以内で意見を発表。同志社大グローバル地域文化学部の西納春雄教授と、京都市教育委員会ALT担当のデリック・マカタンタン主事が、内容や英語力、表現力などを審査した。

太田さんのテーマは「チョコレートは本当に甘いのか？」。途上国の製品を適切な価格で購入する「フェアトレード」を通して、力オの生産に従事する貧しい子どもたちを支援する必要性を訴えた。審査員から「発音はもちろん、内容的にも優れていた」と評価された。

金井さんはハンセン病療養施設を訪れた経験を基に、「正しい知識が差別を減らす」と題してスピーチ。吉田さんは「夏休みを救え」を論題に、勉強だけでなく様々な経験を積む大切さを訴えた。講評で西納教授は「ゆっくりと相手の心に伝わるように語ることが大切」とアドバイスし、マカタンタン主事は「勇気を持って自分の考えを表現したスピーチが多かった」と語った。

偏見はなくせる

金井さん

「修学旅行で岡山県のハンセン病療養施設を訪れ、過去には元患者さんが差別を受けたことを知った。正しい知識があれば、偏見をなくすることができることを伝えたかった。昨年も府大会に参加したが、中央大会には行けなかったの、うれしい」

ぜひ決勝進出を

太田さん

「フェアトレードが社会にあまり知られていないことが分かり、途上国の人たちのためにも、その大切さを訴えた。府大会2年連続1位の成績に恥じないよう、さらに練習を頑張りたい。中央大会では、昨年行けなかった決勝に、ぜひ進みたい」

交流を深めたい

吉田さん

「夏休みにコンピューター関係のイベントにボランティアとして参加し、学校で学んだことが社会で役立つと実感した。ボランティアを体験する機会を増やしてほしいと主張したが、スピーチ内容を覚えるのが大変だった。中央大会では全国の中学生と交流したい」